

## 令和4年度 学校評価アンケート結果

### 1 学校教育目標

教育基本法の精神に基づき、校訓「いのちを大切に」を体し、知性豊かで、人間尊重の精神に徹し、心身ともに健康で、自主性、創造性に富んだ、たくましい実践力をもった人間を育成する。

### 2 見方

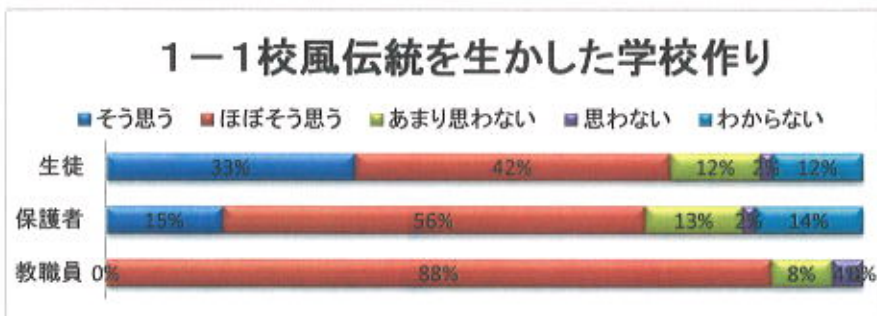
- 1, そう思う                      2, ほぼそう思う      →                      +  
 3, あまり思わない      4, 思わない                      →                      -  
 5, 分からない                      →                      +-

以上の3段階で考察しています。

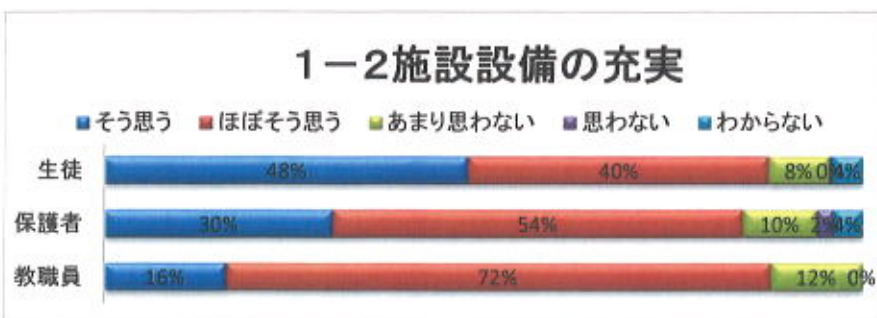
### 3 保護者回答率

回答数(人) / 総数(戸数) = %  
 236          251          94%

#### (1) 【学校生活に関すること】 個性的で魅力的な学校づくり, 施設・設備



		校風伝統を生かした学校作り					
1-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	49	33	32	42	81	75	
保護者	19	15	52	56	71	71	
教職員	33	0	56	88	89	88	



		施設設備					
1-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	60	48	35	40	95	88	
保護者	37	30	52	54	89	84	
教職員	52	16	41	72	93	88	

◎1-1：【校風・伝統を生かした魅力的な学校づくりができています】

教職員の約9割が「ほぼそう思う」と回答したのに対し、生徒、保護者の「そう思う」「ほぼそう思う」は7割程度の回答となっており、意識の差が見られた。

本校では、全国にも誇れる、校訓「いのちを大切に」のもと、全教育活動を展開している。回答にでた意識の差を埋めるためにも、日頃の教育活動、ボランティア活動、オンリーワン活動や学校行事などの目的を生徒に明確に示し、地域の方々や保護者へ情報発信に努め、行事への参加を呼びかけたい。それらを通して生徒には達成感や充実感を味わわせ、保護者には学校教育への理解や協力を求め、本校の校風・伝統を生かした魅力的な学校づくりにつなげていきたい。

◎1-2：【学校の施設・設備は十分である】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が、前年度より3者とも減少した。プロジェクター等、新しい機器が導入されてはいるが、それが「設備の充実」と捉えられていないことを表していると思われる。今年度も新たな機器の導入を行ってきたが、今後も学力向上に向け、さらなる充実を図るとともに、活用の様子など、保護者への啓発も並行していきたい。

(2) 【生徒の生活に関すること】他人への思いやり・学校の決まりを守る。

2-1 思いやりを持って行動できている



		思いやりを持って行動できている					
2-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	41	19	41	53	82	72	
保護者	20	17	58	59	78	76	
教職員	15	0	74	84	89	84	

2-2 きまりを守っている



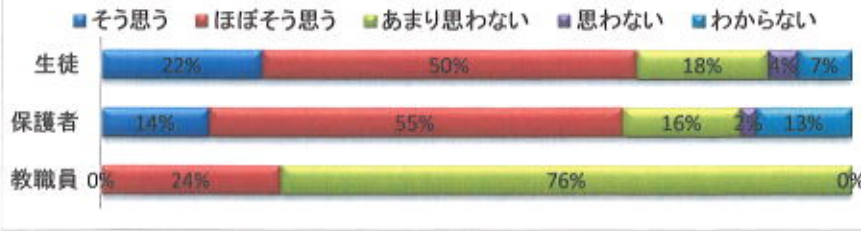
		きまりを守っている					
2-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	58	40	35	45	93	85	
保護者	20	19	58	64	78	83	
教職員	44	0	56	84	100	84	

2-3 人を大切にした行動ができてい



		人を大切にする					
2-3		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒		24		51		75	
保護者		18		61		79	
教職員		0		80		80	

## 2-4 自律した行動がとれている



2-4	自律した行動					
	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒		22		50		72
保護者		14		55		69
教職員		0		24		24

### ◎2-1：【生徒は思いやりを持って行動できている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が7割から8割を維持しているが、前年度より3者とも若干減少している。生徒間のいじめやからかい等、人を傷つける言動を危惧した回答と捉え、今後、より思いやりのある積極的な行動のできる生徒の育成をめざして、道徳教育、人権教育の推進に努めていかなければならないと感じている。

### ◎2-2：【生徒は学校や学級の決まりを守っている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合で見ると、3者とも85%でほぼ同じとらえ方といえるが、生徒と教職員は昨年度より減少している。また、「そう思う」だけを見ると、教職員は激減している。交通ルールやマナーの件で近所の方より苦言をいただくこともあり、継続的な指導の必要性も感じている。また、規範意識だけでなく、社会性を身につけていけるように、家庭との連携も密にしていきたい。

### ◎2-3：【人を大切にした行動がとれている】

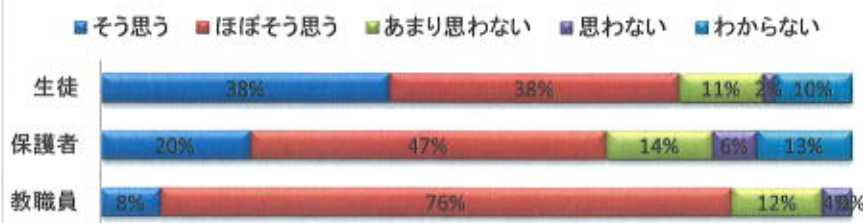
2-1とほぼ同じ傾向を示して。

### ◎2-4：【生徒は自立した行動がとれている】

今年度から新設した項目である。「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が約7割程度で、生徒と保護者はよく似た認識だといえる。なお、今年度に教職員でめざす生徒像について「自律した生徒の育成」を目標に掲げ共有したが、「自律した生徒とは何か」について保護者の間に認識のずれがないよう、教職員と生徒間で具体的に考え、その育成を図るために、家庭と連携していく必要がある。

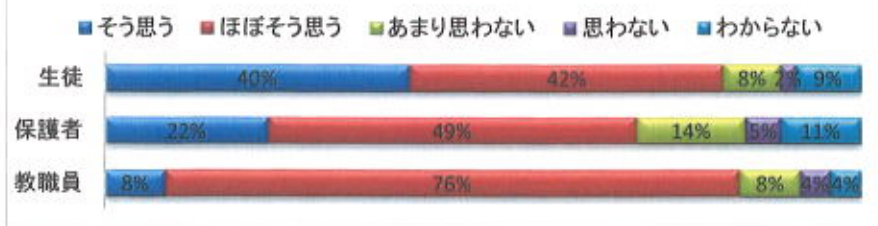
## (3) 【教職員に関すること】教職員の指導姿勢・情熱

### 3-1 教師の適切な指導



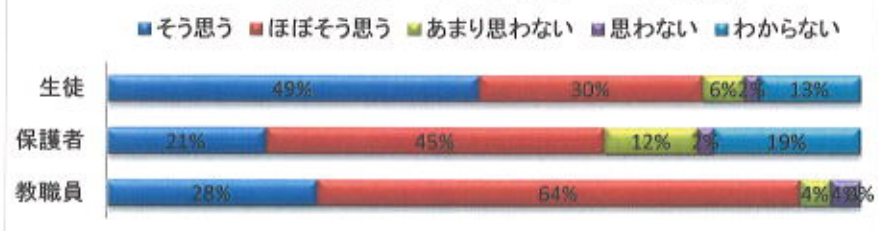
3-1	教師は適切な指導ができています					
	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	60	38	26	38	86	76
保護者	20	20	48	47	68	67
教職員	41	8	52	76	93	84

### 3-2 情熱をもった教職員が多い



		情熱をもった教職員が多い					
3-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	64	40	28	42	92	82	
保護者	23	22	48	49	71	71	
教職員	41	8	52	76	93	84	

### 3-3 先生のいじめなどへの対応



		先生のいじめなどへの対応					
3-3		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	64	49	28	30	92	79	
保護者	23	21	48	45	71	66	
教職員	41	28	52	64	93	92	

#### ◎3-1：【教員は適切な指導ができています】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、教職員に対して生徒、保護者が少なくなっているが、「あまり思わない」「思わない」の割合にはさほどの差はなく、生徒、保護者は「わからない」の割合が多くなっている。生徒の「わからない」という回答をどう捉えるかは難しいが、保護者については、必要な場合には指導の内容や経緯について丁寧に説明し、連携を図っていくことが重要だと考えられる。

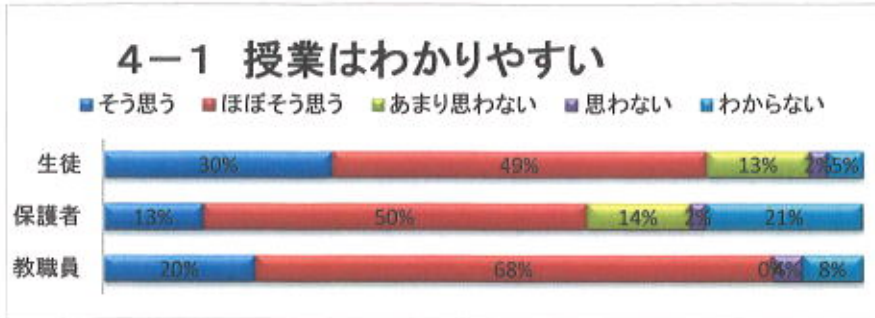
#### ◎3-2：【情熱をもった教職員が多い】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は約7割から8割を超えているものの、生徒、教職員で低下している。現在、教職員は子どもたちと関わる教育活動をはじめ、学校現場に求められている多大な業務に向き合うという現状がある。教職員の心身の健康は、情熱を持った教育につながるとの認識のもと、現在、「学校現場における働き方改革」を推進しているところである。保護者にも、学校における働き方改革を進めることが、教職員のワークライフバランスを改善し、ひいては教育の質の向上につながるということの理解と協力を求めていきたいと考えている。

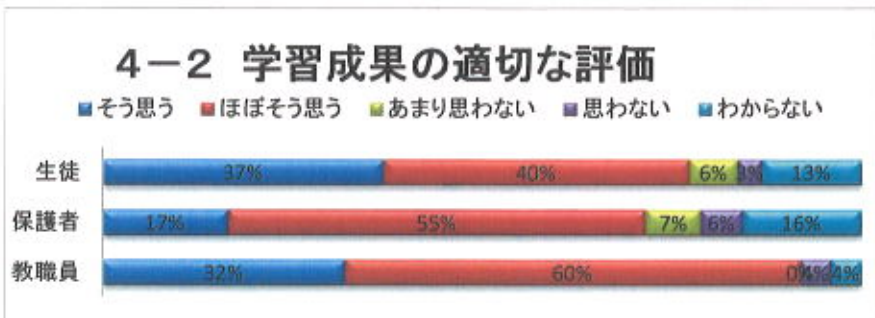
#### ◎3-3：【いじめなどの問題に真剣に取り組んでいる】

生徒、保護者ともに否定的な回答は多くないが、3-1と同様、「わからない」の回答が多い。生徒の回答に「わからない」が多いのは、いじめに遭遇したことがないとも考えられるが、いじめに対して鈍感になっている可能性も考えられる。保護者の回答に「わからない」が多いのは、生徒と保護者のコミュニケーション不足により、学校の様子が十分保護者に伝わっていない可能性も考えられる。今後も適切に連携を深めていきたい。

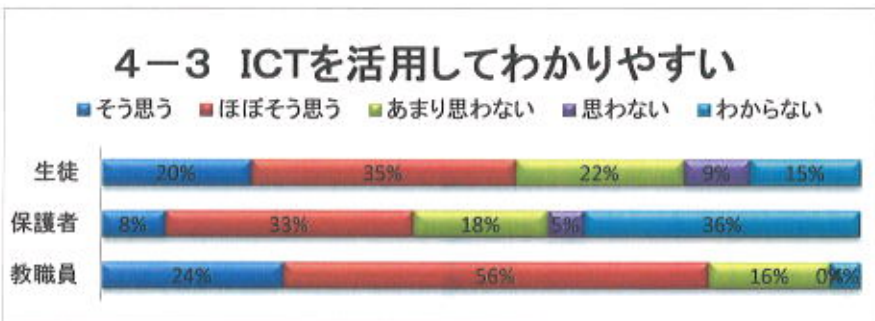
(4) 【授業に関すること】授業はわかりやすい・適切な評価



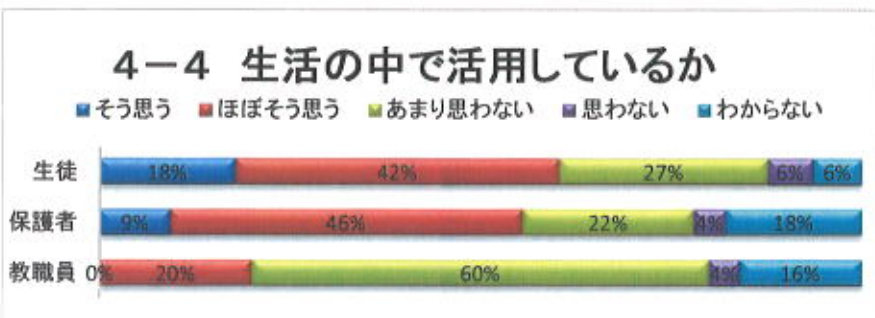
		授業はわかりやすい					
		そう思う		ほほそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
4-1	生徒	48	30	39	49	87	79
	保護者	17	13	45	50	62	63
	教職員	26	20	63	68	89	88



		学習評価を適切に評価している					
		そう思う		ほほそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
4-2	生徒	60	37	26	40	86	77
	保護者	22	17	47	55	69	72
	教職員	48	32	41	60	89	92



		ICTでわかりやすい					
		そう思う		ほほそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
4-3	生徒		20		35		55
	保護者		8		33		41
	教職員		24		56		80



		生活の中で活用					
		そう思う		ほほそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
4-4	生徒		18		42		60
	保護者		9		46		55
	教職員		0		20		20

◎4-1：【授業はわかりやすい】

生徒の「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、昨年度より若干低下した。個々の学力差はあるものの、全体的にはきめ細やかで丁寧な学習指導ができるように、積極的なICT機器の導入、「学習の手引き」等で具体的な学習方法を示したり、自主学習を勧めるなどの手法で学力向上に向け、取り組んできたが、今後も、個別最適な学びの実現に向け、生徒のやる気を引き出させる授業の工夫を継続していきたい。

◎4-2：【学習成果を公平かつ適切に評価している】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、教職員が約9割を超えているのに対し、保護者・生徒は7割台である。この隔たりを埋めるためには、まず、3観点の観点別評価をどのような方法で行っているのか、生徒にわかりやすく説明する必要がある。さらに、主観的な評価に陥らず、客観的なデータに基づいて観点ごとに適正な評価ができていくか、評価の在り方を見直していきたい。

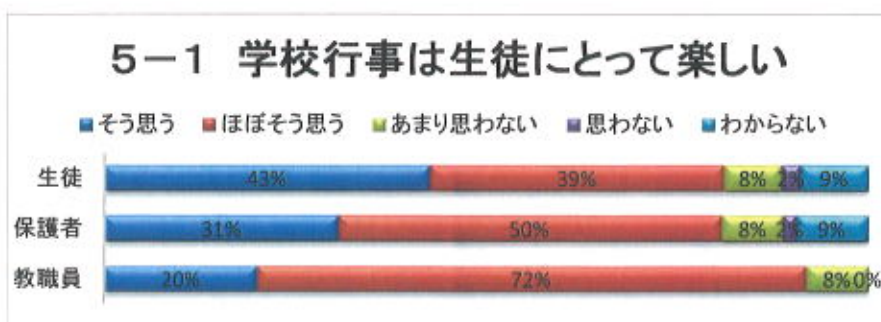
◎4-3：【ICTを活用してわかりやすい授業をしている】

本項目も今年度の新設である。「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、生徒で55%と半数を少し超える程度、保護者は4割となっている。わかりやすい授業を展開する上でICTも活用することは大切であり、教職員が効果的にICTを活用するスキルを身につけていくことも大切だが、とにかくICTを使えばよいというのではなく、わかりやすい授業をするために、教職員が適切な教具と指導方法を選択することが重要だと考える。

◎4-4：【学んだ知識を生活の中で活用しているか】

本項目も今年度の新設である。3者とも生活の中で十分活用できていないと考えていることが読みとれる。特に教職員は、肯定的な意見が少なかった。この結果から、新学習指導要領の目指す力をいかに生徒につけさせるかについて、教職員は指導の改善も含め検討をしていく必要がある。

(5) 【学校行事に関すること】生徒にとって楽しい・学級のまとまりや伝統の継承

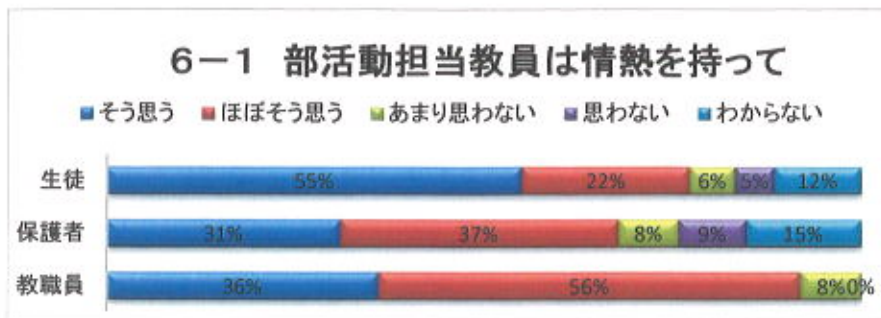


		学校行事は生徒たちにとって楽しい					
5-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
	生徒	70	43	22	39	92	82
	保護者	33	31	48	50	81	81
	教職員	59	20	33	72	92	92

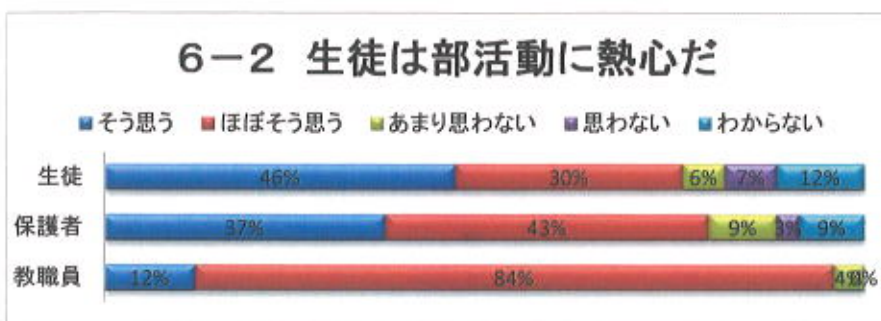
◎5-1：【学校行事は生徒にとって楽しいものとなっている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、前年度に比べて顕著な違いは見られないが、「そう思う」だけを比べると、生徒も教職員も大幅に減っている。体育祭が半日だったり、文化祭が録画されたものを見る形だったことを考えると、この割合の低さも仕方がないのかもしれない。しかし、そういった制約の多い環境の中でも、生徒たちが楽しいと感じられる行事の企画を工夫していかなければならないと感じる。

(6) 【部活動に関すること】教師の情熱を持った指導・生徒の意欲的な取組



		部活動担当教員は情熱を持って指導している					
6-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	64	55	19	22	83	77	
保護者	34	31	41	37	75	68	
教職員	52	36	44	56	96	92	



		生徒は部活動に熱心だ					
6-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	63	46	22	30	85	76	
保護者	41	37	45	43	86	80	
教職員	44	12	52	84	96	96	

◎6-1：【部活動担当教員は情熱をもって指導している】

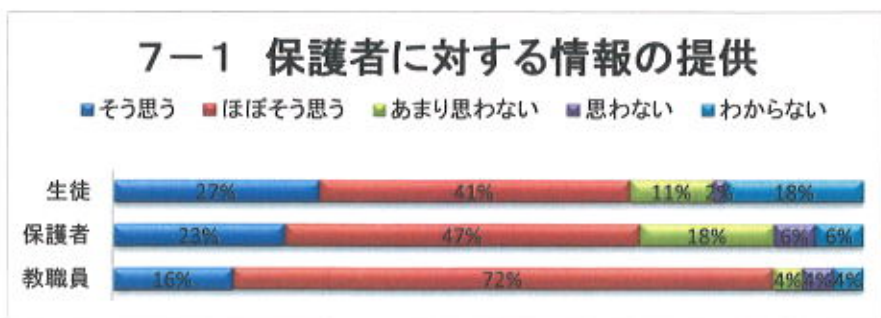
「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は生徒、保護者、教職員の3者で低下しているが、3-2でも述べたとおり、働き方改革を進めていく上で、この変化は当然起こるべき変化でもあったと考えられる。

なお、それぞれの部の方針・練習内容の差はあるが、部活動は、体力や技能の向上をめざすだけでなく、あいさつや礼儀の大切さを学ぶことも目的とする教育活動の一環として認識もしているところである。「学校における働き方改革」と併せ、今後もその在り方について検討をしていきたい。

◎6-2：【生徒は部活動に熱心だ】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合で見ると、教職員の96%に対して、生徒は76%と20ポイント少ない。これは部活動をしていない生徒が「わからない」あるいは「思わない」と答えているためと考えられる。保護者についても同様のことが言えるため、3者とも高い数値であると言えるのではないかとと思われる。

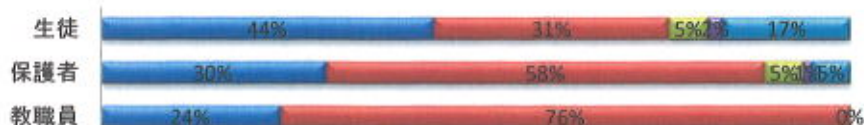
(7) 【開かれた学校づくりに関すること】情報公開・参観日・面談・体験学習等



		保護者に対する情報の提供					
7-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	41	27	41	41	82	68	
保護者	25	23	49	47	74	70	
教職員	48	16	48	72	96	88	

## 7-2 参観日や面談は適切である

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



7-2	参観日や面談は適切である					
	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	51	44	26	31	77	75
保護者	25	30	55	58	80	88
教職員	33	24	48	76	81	100

### ◎7-1：【那賀川中学校の様々な情報の提供】

昨年度との顕著な違いは、生徒の「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が低下していることである。それと同時に、「わからない」が、若干増加している。「保護者への情報提供」という言葉から、何をイメージすればいいのかわかりづらかったとも考えられる。保護者に情報を提供する機会・手段として、三者面談、学校便りや学年便り等の文書、ホームページ、通信簿や成績表、欠席時等の家庭連絡などが挙げられるが、今後も、それぞれの方法で、保護者のニーズに合った情報提供を心がけていきたい。

### ◎7-2：【参観日や面談が適切に行われている】

「そう思う」「ほぼそう思う」の割合は、生徒はほぼ横ばい、保護者、教職員は昨年度を上回っている。参観日を2回実施できたことも要因だと考えられる。今後も適切な時期や手法を工夫していきたい。

## (8) 【那賀川中学校の教育全体に対する満足度と誇り】

### 8-1 那賀川中学校でよかった

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



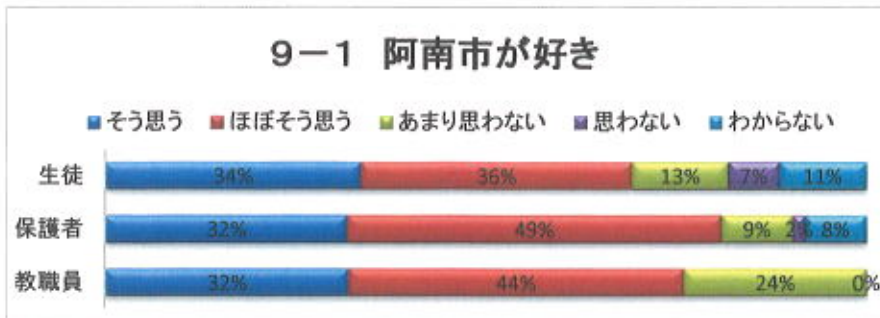
8-1	那賀川中学校に対する満足度と誇り					
	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4
生徒	73	54	17	30	90	84
保護者	43	36	43	49	86	85
教職員	56	20	37	56	93	76

### ◎8-1：【那賀川中学校の教育全体に対する満足度と誇り】

那賀川中学校に対する満足度と誇りを「那賀川中学校の生徒で良かったか。」という問いかけで評価したものである。「そう思う」「ほぼそう思う」の割合が、生徒84%、保護者85%であるのに対して、教職員は若干下降している。ただ、教職員は母数が小さいので、1人の変化がパーセンテージとしては大きな変化として出ることを考えると、そう大きな変化ではないと考えられる。ただ、全員の満足を得られていない現状を真摯に受け止める必要がある。全教職員で課題を見極め、その解決のための取り組みを積み重ねていく決意である。



(9) 【阿南市に対する愛着】



		阿南市に対する愛着					
9-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
	生徒		34		36		70
	保護者		32		49		81
	教職員		32		44		76

◎9-1：【阿南市に対する愛着】

今年度新設した阿南市小中学校で問う共通の項目である。漠然とした設問であり、回答しづらかった面もあったとは考えられる。具体的な分析は難しいが、相対的には保護者は阿南市に対する満足感が高く、生徒と教職員は若干低かった。人口減少や少子化に歯止めがかからない現状もあるが、ふるさと「阿南市」に愛着と誇りを持てる教育を、本校としても今後も継続していきたい。また、行政も、現在の中学生が将来大人になっても住み続けたいと思う魅力的な街づくりを真剣に考え、推進してくれることを願っている。